

2020 5/26

No.2115

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
—神奈川政経懇話会—



東京湾アクアラインの海ほたるパーキングエリアから横浜市中心部を望む。春がすみの中、横浜ランドマークタワー や富士山が切り絵のように浮かんだ。



contents

視点点描

感染拡大防止のために

3

デモクラシーの現場から

コロナ時代の政治風景

4

政 治

力量問われる日本政治

6

コロナ感染拡大、未曾有の試練

政 治

きしみだした『チーム安倍、

永田町、早くも関心は100日後

10

新型コロナウイルス

『ウィズ・コロナ、の局面へ

14

くらし2020

課題山積の介護保険20年

16

神奈川景気データファイル 会員コーナー

18

神奈川景気データファイル

19

事務局だより

◇2020年6月定例講演会
ユーチューブによるライブ配信で開催
配信日時 6月11日(木)午後1~2時
講師は東京医科大学教授、渡航者医療センター部長の濱田篤郎氏
演題は「職場における感染症対策～新型コロナウイルスを中心に」

【お知らせ】神奈川政経懇話会ではホームページと会報「政経かながわ」に会員コーナーを設け、新商品の紹介、地域貢献活動、人事などジャンルを問わずさまざまな会員情報を掲載しています。掲載の問い合わせなどは事務局☎045(226) 2121。

視点



感染拡大防止のために

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、神奈川県内の学校が休校となつてから3カ月になる。うどんをつけて、小学校から大学まで、どの学年の子どもたちにとつてもかけがえのないものになるはずだつた学びの時間が奪われている。外出自粛が強く叫ばれる中で、また子どもたちに感染を広げないという意味でも、休校措置はほとんどの家庭で受け入れられている

と思う。ただ、失われている子どもたちの学ぶ権利を取り戻そうともう動きには、大きな濃淡の差がある気がする。

インターネットを使つた授業一つをとつても、課題のメール等での配布、動画の配信から双方向授業まで、私立、公立の違いだけでなく、同じ自治体の公立校でも違ひが出ている。各家庭のネット環境などで平等に行なうことが難しい

と言わされており、それも大きな課題だが、それ以前に先生のITスキルの差などで発信が進まないケースも少なくない。

各学校の先生がそれぞれ自分の授業を生徒に届けたいという思いは大変に尊いが、学校の先生達はITの専門家ではなく、子どもたちと接することのプロフェッショナルだ。現状を改善するためには、例えば授業の動画は教育委員会が一括して作成するとか、それこそ教科書の版元と協力して文部科学省が行つてもいいのではないか。

デジタル端末も同様で、これは将来的な「アフターコロナ」も見据え、学校任せにせず行政が主導して進めるべきだ。

学校が担つてている役割は、学習を進めることと同時に、子どもたちの居場所となることだ。授業を届けることと同じく、子どもたちが集まる機会を復旧すること

が必要だ。県内でも感染状況は地域によつて違い、またほとんどが歩いて通う小学校と高校でも状況は違う。学校には比較的広いスペースもあるのだから、できるところから自由登校で屋外でのホームルームを分散して再開するなど、各学校に応じた対応を段階的に進められるようにするべきではないだろうか。感染の第二波、第三波も危惧される中でリスクがゼロにはならない以上、個別に工夫を積み重ねていくしかない。

各教育委員会への取材では、「今後の状況が分からぬのが一番大変」との答えが多かつた。9月入学など、話題が先行すればするほど、現場の先生達の苦労は増えるばかりだ。大きな方針を早めに示し、各学校の裁量を大きくすることが必要だ。

(神奈川新聞社川崎総局長)

和城 信行